

テスト設計コンテスト'13

アピールシート

※ 全体でA4縦1ページに収まるように記述してください。

地域名

北海道

チームID

1301001

チーム名

Yuki Da RMA

チーム紹介

チーム名の由来と紹介およびメンバー紹介などを記述してください。

昨年のテスト設計コンテストにも出場したチーム Yuki Da RMA(勇気とリスクをマネジメントするアプローチ)です。メンバー 代表:中嶋 信、発表:小楠聡美 成果物レビューア:小楠孝紀 お世話係:安達賢二

コンセプト

ユーザの立場に立ったテスト&現場でも実践できるテスト

工夫点

①目的機能仕様からのアプローチ

まずは「話題沸騰ポット要求仕様書第7版」の内容を機能単位に再構成し、目的機能を明確化＝「要求仕様書再構成版:スープカレー表(目的機能仕様)」(以降「DOC①」とする)を構築。全作業の共通インプット情報として活用した。この対応により、記述された仕様へのテスト網羅、および目的に対するテスト網羅性を高めた。

②想定利用者領域からのテスト設計アプローチ

「DOC①」からポットシステムとしてのテストを設計するだけでなく、要求仕様+製品概要から設定した利用者像と利用時のコンテキスト・主要用途・利用シナリオをベースにしたポットの利用目的達成・安全性・生産性に対するテスト設計を行った。

→利用局面のテスト設計結果とペーパープロトタイプ等の簡易な手段を活用して、要求仕様フェーズ段階で利用シミュレーション(レビュー)を行う。これによりシステムテスト終了後の運用テスト時等に、利用者の目的を達成できない、使いにくい、などの致命的な不具合が判明するリスクを低減できる。

③基本的な対象網羅設計

「DOC①」に基づく機能仕様・構造分析結果+製品・機能の特徴などから、利用シナリオ、システム全体、およびその構成要素(機能統合・単機能)の階層毎に状態遷移+振る舞い(を表現する「おぐチャート」を活用)の視点で、および構造+データの流れ(を表現する「MAQ チャート」を活用)の視点で基本的な網羅確認を行うこととした。またテスト対象に対する網羅箇所と網羅レベル確認を「おぐマトリクス」および「スープカレー表(目的機能仕様&リスク)」で行うことで網羅に関する客観性を確保した。

④利用時リスク等に基づくテストの厚み設計

③の基本的網羅確認に加え、「DOC①」に基づき明確化した有効性・安全性・生産性阻害リスク(利用時リスク)の視点、および個別機能・構造上の特徴からテストに厚みを加えた。